

認知症の症状

認知症の症状には、大きく分けて「中核症状」と「行動・心理症状」の2つがあります。

◆ 中核症状

認知症の原因となる病気で脳細胞が壊れることにより、脳の働きが阻害されて発生する症状です。

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 記憶障害 | 新しいことを覚えられない、前のことが思い出せない |
| 2. 見当識障害 | 場所や時間、季節や曜日がわからない |
| 3. 実行機能障害 | 段取りができない、計画が立てられない |
| 4. 失行 | 服の着方がわからない、道具がうまく使えない |
| 5. 失認 | 物が何かわからない、人が誰だかわからない |
| 6. 失語 | 物の名前がでてこない |

◆ 行動・心理症状(BPSD)

中核症状を認識したり、不安に思うことから生じる精神症状・行動障害を指します。

本人の性格や生活環境、周囲の人の振舞いなどにより程度が異なってきます。「周辺症状」とも呼ばれています。

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| 1. 徘徊 | 目的もなく、あちこちと歩き回る |
| 2. 妄想 | 現実には起きていないことを信じて疑わない |
| 3. 幻覚 | 現実にはないものが見える幻視、聞こえる幻聴がある |
| 4. 不安・焦燥 | 強い不安、イライラ |
| 5. 抑うつ | 意欲の減退 |
| 6. 食行動異常 | 食べられないものを食べようとする |
| 7. 睡眠覚醒リズム障害 | 昼夜逆転、早朝覚醒など |
| 8. 介護抵抗 | 介護されることを嫌がる |
| 9. 暴言・暴力・攻撃性 | 大声をあげたり、手をあげたりする |